

不退転

第 100 号
東江中学校
校長 神元 勉

朝の『読み語り』⑧

21日(水)の朝の読書の時間に、今年最後の8回目の「読み語り」がありました。今回も、保護者や地域の皆さま9名が、協力してくれました。いつも、ご協力ありがとうございます。

- 1年1組：玉木 彰子(保護者)
「忘れられない看護エピソード」からの抜粋
- 1年2組：比嘉 礼子(保護者)
「わすれたっていいんだよ」認知症の絵本
- 1年3組：辺土名喜美枝(SSW)
「ちいさなリース」
- 2年1組：上里 晃彦(保護者)
「のゆががあります」としよかんのよる」
- 2年2組：バイティガ・みどり(琉球大学院生)
琉球新報4月8日の記事
- 「アリのとの衝撃な出会い」から「将来の夢」へ
- 2年3組：岸本 直也(市議会議員)
「名護市の予算(収入と支出)」
- 3年1組：仲村 司(キタポウル支配人)
「ボウリングの器具や歴史について」
- 3年2組：喜納 寛(名護消防署)
「消防職の話」
- 3年3組：山入端 保(地域の方)
「いじめについて・伝える大切さ」



私は、3年1組の仲村司さんの「読み語り」を聴かせてもらいました。実物のピンを持参して、その重さを体感させながら、興味深くボウリングの話をしていました。

真剣な眼差しで耳を傾ける3年1組

今日は『冬至』だけど！

冬至(12月21日)とは北半球において太陽の位置が1年で最も低くなる日で、日照時間が最も短くなります。



1年で最も日が短いということは、翌日から日が長くなっていくということ。そこで、冬至を太陽が生まれ変わる日ととらえ、古くから世界各地で冬至の祝祭が盛大に行われていました。太陰太陽暦(いわゆる旧暦)では冬至が暦を計算する上での起点です。

中国や日本では、冬至は太陽の力が一番弱まった日であり、この日を境に再び力が甦ってくることから、陰が極まり再び陽にかえる日という意の一陽来復(いちようらいふく)といって、冬至を境に運が向いてくるとしています。つまり、みんなが上昇運に転じる日なのです！

県外では、冬至といえばかぼちゃと柚子湯ですが、沖縄ではトゥンジージュシーを食べる習慣があります。沖縄の方言でトゥンジーは冬至、ジュシーは炊込みご飯の事で、トゥンジージュシーは「冬至の炊き込みご飯」という意味になります。沖縄では、冬至に家族みんなで、このトゥンジージュシーを食べ、家族の健康と子孫繁栄を願う習慣があります。トゥンジーピーサ(冬至寒い)という言葉もありますが、今年の冬至は、随分と暖かくなりました。



このトゥンジージュシーを食べ、家族の健康と子孫繁栄を願う習慣があります。トゥンジーピーサ(冬至寒い)という言葉もありますが、今年の冬至は、随分と暖かくなりました。